

NAGASEは、190年以上変わらず、常に誠実に正道を歩み、お客様と社会が求める製品とサービスを届け続けてきました。積み重ねてきたもの。それは、パートナーや社会との信用です。

これからは、「今」の課題解決に加えて、「next = 次」の社会や人類の課題解決に対し、新たな素材、次なるマテリアルを通してグループをあげて挑戦していきます。

「この地球は、未来からの借り物」

NAGASEは持続可能な未来の社会に対して、信用を重ね、世界中のパートナーと、温もりのある未来を創造していきます。

NAGASEグループの
経営理念

誠実正道

社会の構成員たることを自覚し、誠実に正道を歩む活動により、社会が求める製品とサービスを提供し、会社の発展を通じて、社員の福祉の向上と社会への貢献に努める

NAGASEのあゆみ

染料問屋として創業

海外への進出

製造・加工・研究開発機能の強化

パートナーとの共創

1832-

創業

1832年、初代長瀬伝兵衛が京都・西陣で紅花や布海苔、澱粉を扱う問屋「鱗形屋（うろこがたや）」を創業。これが現在まで続くNAGASEグループの歴史の始まりです。その後、天然染料だけでなく合成染料の取り扱いを開始したことで、化学業界での基盤を確立しました。



初代長瀬伝兵衛



ゼネラルエレクトリック社(GE)

1901-

有力な海外メーカーとの関係構築

1900年代に入ると、化学の可能性を追い求めて海外メーカーとの取引を開始。輸入事業を拡大させる中で、1901年にフランス・リヨンに出張所を開設しました。それを契機に、スイスのバーゼル化学工業社、米国のイーストマン・コダック社（現・コダック社）、デュポン社等の大手メーカーとのパートナーシップを拡大。海外の最先端製品の輸入や、当時の日本にはなかった技術などを持ち込み、「化学品の専門商社」として飛躍をしながら新たな価値を提供していきました。

1970-

製造・加工などメーカー機能を拡充

創業当初から多様な事業展開を行ってきたNAGASEグループ。1970年には、チバ社のエポキシ樹脂を製造する合併会社として長瀬チバ(株)（現・ナガセケムテックス(株)）を、翌年にGE社との折半出資でエンジニアリング・プラスチック(株)を設立。当社工場も続々開設するなどして、製造・加工といったメーカーとしての機能の強化・拡充を推進しました。



1893年当時のチバ社全景



ナガセバイオイノベーションセンター

1990-

研究開発機能での優位性を発揮

1990年代以降は、研究開発機能の拡充を本格化。1990年にバイオ関連の研究開発拠点となるナガセR&Dセンター（現・ナガセバイオイノベーションセンター）を設立。2000年代には、ナガセケムテックス(株)のエポキシ樹脂の工場として中国・長瀬電子材料(無錫)有限公司を設立。また、ドイツ・PacTech社を子会社化しました。2007年には、オープンイノベーションラボであるナガセアプリケーションワークショップを開設し、研究開発機能においても優位性確保を推進しました。

2010-

食品素材ビジネスを本格化

バイオ技術の注目度も高まり始めた2010年代。NAGASEグループは、食品素材ビジネスを強化するため、バイオ技術に特化した(株)林原を2012年に子会社化。2019年には、米国の食品素材販売・加工会社でグローバルな販売網を有するPrinovaグループを子会社化しました。これらの新たなグループ企業間でのシナジー創出により、食品素材ビジネスを本格化し、グローバルに展開しています。



Prinovaグループ



2020-

サステナビリティの推進

2020年にサステナビリティ推進委員会を設立しサステナビリティ基本方針を策定、中期経営計画ACE 2.0で非財務目標を策定し、グループと社会の持続的な成長のため、企業活動を通じて社会・環境課題の解決に貢献することを目指しています。また、2023年4月に(株)林原とナガセケムテックス(株)生化学品事業部を統合し、グループのバイオ事業を一層強化。サステナブルな社会の実現に貢献していくためのグループ基盤を構築しています。

1967年3月期・単体

売上高 **650**億円
総資産 275億円
営業利益 18億円

1987年3月期・単体

売上高 **4,305**億円
総資産 1,936億円
営業利益 64億円

2007年3月期・連結

売上高 **7,013**億円
総資産 4,228億円
営業利益 216億円

2023年3月期・連結

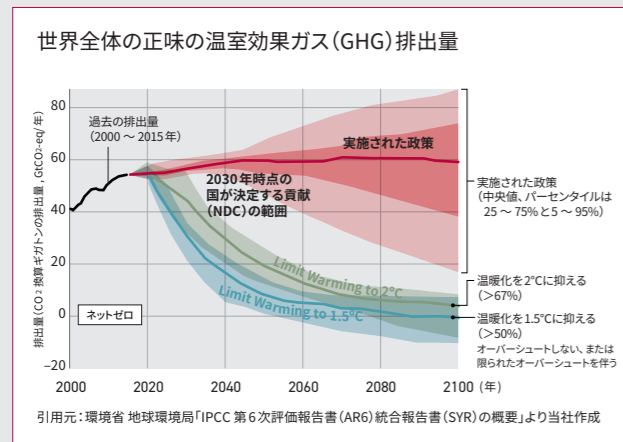
売上高 **9,128**億円
総資産 7,626億円
営業利益 333億円

NAGASEを取り巻く外部環境

NAGASEグループでは、2021年5月に発表した中期経営計画ACE 2.0策定時に外部環境分析を行い、NAGASEおよびステークホルダーの双方にとって「気候変動・資源不足」、「業界再編」、「技術革新」、「人口動態の変化」が最重要事項であると認識しました。これらの外部環境の変化を新たな「事業機会」と捉えて、環境・社会課題の解決に貢献していきます。



世界中で脱炭素の動きが加速する中、企業にはバリューチェーン全体での排出抑制が求められています。また、世界人口の増加やウクライナ情勢の変化などを背景に、エネルギーや食糧資源問題も深刻化しています。



機会を捉えた取り組み

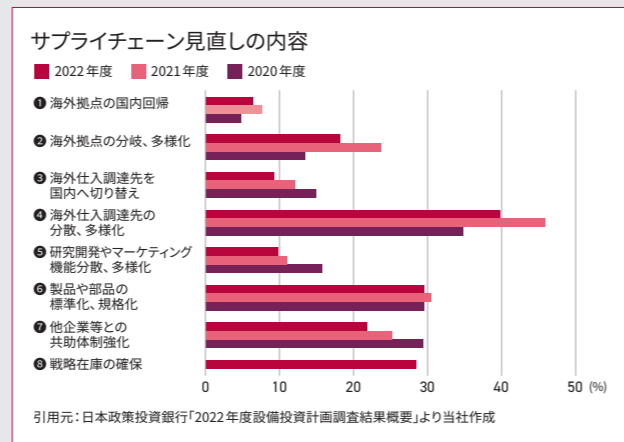
業界における最先端の情報・知識やバイオ技術、また脱炭素ソリューションなど、NAGASEグループならではの技術ノウハウを駆使することで、社会課題の解決につながる新たな市場を創出していきます。

取組事例

- NAGASEグループのバイオ関連技術を活用した取り組み >詳細はP29-30
- 脱プラスチックに貢献するガスコントロール技術「TiMELESS®」 >詳細はP33
- 化粧品・医薬品業界向けCFP算出コンサルティングサービス >詳細はP42
- 森林クレジット創出と地域社会や林業への価値提供 >詳細はP42



競争環境や顧客動向の変化、規制緩和などを理由に業界再編が進んでいます。さらにオープンイノベーションの活発化などによって新たな動きが生まれ、協業できるビジネスパートナーの枠が広がっています。



機会を捉えた取り組み

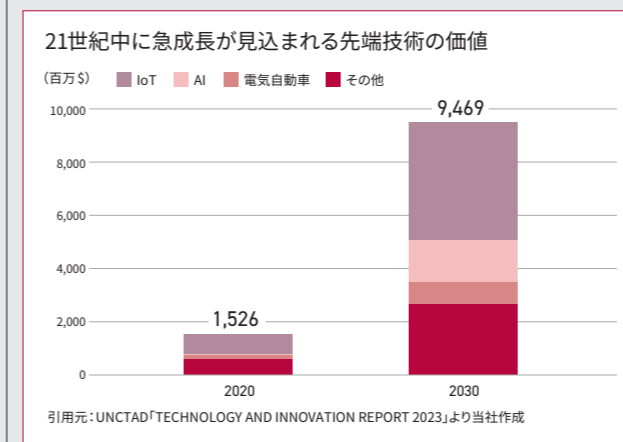
顧客の取引集約や商流見直しが進む中で、NAGASEグループの業界における技術や知見、課題解決力が評価されています。サステナビリティへの対応やデジタル化への投資を積極化することで、新たな価値提供を加速していきます。

取組事例

- 化学品AI共同物流マッチングサービス >詳細はP34
- NAGASEグループの各事業セグメントの取り組み >詳細はP61-78



グローバルな競争環境が厳しさを増す中、従来型のビジネスモデルを維持するだけでは成長し続けることは困難です。また、コロナ禍でデジタル技術の革新が一気に進み、企業には新たな事業機会を切り拓いていくことが求められています。



機会を捉えた取り組み

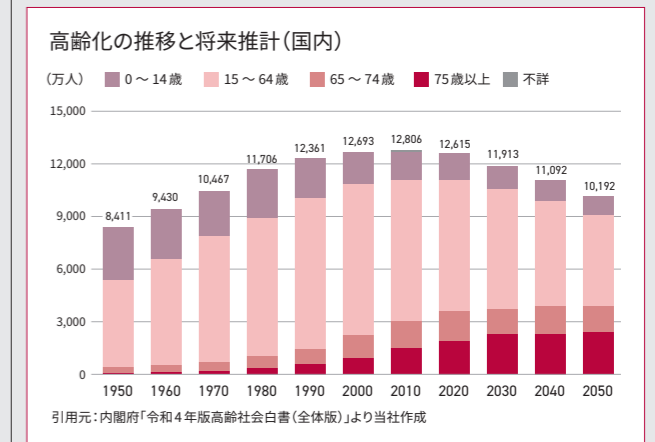
マテリアルとDXの融合、半導体市場の開拓や、業界ニーズの高い化学品ドキュメントのクラウド管理開発など、NAGASEの強みを活かした技術革新を進めていきます。

取組事例

- NAGASEグループの半導体に関する取り組み >詳細はP32
- NAGASEグループのDXに関する取り組み >詳細はP45-46



国連が発表した「世界人口白書 2023」によると、2022年に世界人口が80億人に到達しました。先進国を中心に平均寿命の延びと少子化により人口動態も変化しています。



機会を捉えた取り組み

長寿化、健康意識の高まりにより、グループが持つ幅広いネットワーク、商品開発力をベースに、新たな事業機会を獲得していきます。

取組事例

- NAGASEグループの食品素材ビジネス >詳細はP31
- NAGASEグループの生活関連ビジネス >詳細はP75-76

NAGASEの培われた強み

NAGASEグループの培われた強みとして、持続的成長を支え、価値創造の基盤となるのが財務・人的・知的・製造・社会関係・自然の6つの資本です。これらの資本を掛け合わせることで、さまざまな社会課題を解決する事業活動を進めていきます。

経営資本

財務資本

財務健全性と厳格な財務規律

- 株主資本額 3,090億円(2023年3月期)
- 成長投資額 1,500億円(中計「ACE 2.0」5カ年目標)
- R&I 格付A
- サステナビリティ・リンク・ボンド発行 **100億円** (2022年度)

人的資本

グループの多様な機能を掛け合わせて課題解決する「ビジネスデザイナー」

- NAGASEグループ経営理念
「社会の構成員たることを自覚し、誠実に正道を歩む活動により、社会が求める製品とサービスを提供し、会社の発展を通じて、社員の福祉の向上と社会への貢献に努める」
- グループ連結従業員数 **7,220名**

知的資本

幅広い分野の知見を生かし、パートナーと共同で新事業を創出

- バイオの知見と技術でイノベーションを創出(ナガセバイオイノベーションセンター)
- お客様の開発パートナーとして、新技術や新素材の評価・分析、新規用途開発を推進(ナガセアプリケーションワークショップ)
- グループのイノベーションを推進し、将来のビジネスの核をつくる(未来共創室)
- 過去20年間でベンチャー企業をはじめ**200以上の産官学パートナーと特許共同出願**

製造資本

生産性向上と技術革新、グループの総合力による付加価値の拡大

- グループ製造業経営革新室の発足(2022年)
- 製造拠点数 **15カ国・地域 45社** (2023年3月末)

社会関係資本

信頼に基づくパートナーシップとサプライチェーン

- 取引社数 **約18,000社**
- グローバル拠点数 **25カ国・地域 108社** (2023年3月末)

自然資本

地球環境の持続可能性に向けた取り組み

- エネルギー使用量 **238,059MWh** (2023年3月期)
- 総取水量 **3,673ML** (2023年3月期)

NAGASEのユニークな機能

NAGASEの「商社機能」と、製造・加工・研究開発・事業投資・DXといったNAGASEの「独自機能」を掛け合わせて、ビジネスを創出する「ビジネスデザイナー」として他社とは異なる独自の事業を展開しながら、サステナブルな価値を社会に提供しています。

